

計画の策定にあたって

■計画策定の背景

がんは、1981年（昭和56年）から40年以上、日本人の死因の第1位となっています。わが国のがん死亡数の2023年（令和5年）推計値は約39万6千人であり、り患者数は約103万4千人となっています。また、男性、女性ともに、おおよそ2人に1人が一生のうちにがんと診断され、男性ではおおよそ4人に1人、女性ではおおよそ6人に1人ががんで死亡する状況です。

一方、医療の進歩等により、生存率は向上しており、がんと診断されても自分らしく生活をするための政策・施策の充実がより重要になっています。

こうした状況から、区民の生命や健康の維持に向けて、国、東京都、品川区が連携を図りながら、総合的・計画的ながん対策を実施していくことが求められます。

【国の動向】

- 2007年（平成19年）4月に「がん対策基本法」を施行し、同年6月に「第1期がん対策推進基本計画」を策定し、がん診療連携拠点病院の整備や緩和ケア提供体制の強化等に取り組んできました。
- 2012年（平成24年）に策定した「第2期がん対策推進基本計画」では、小児がん、がん教育やがん患者等の就労を含めた社会的な問題等に取り組んできました。
- 2016年（平成28年）には「がん対策基本法」が改正され、AYA世代のがん対策やがんり患をきっかけとした離職者割合の低減等、新たな課題にも対応すべく、平成30年3月に「第3期がん対策推進基本計画」が策定され、「がん予防」「がん医療の充実」「がんとの共生」の3つの柱に沿ったがん対策が推進されてきました。
- 2023年（令和5年）3月に閣議決定された「第4期がん対策基本計画」では、全体目標として、「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての国民とがんの克服を目指す」を掲げ、第3期計画での3本柱を堅持しつつ、4つ目に「これらを支える基盤」を掲げています。

【東京都の動向】

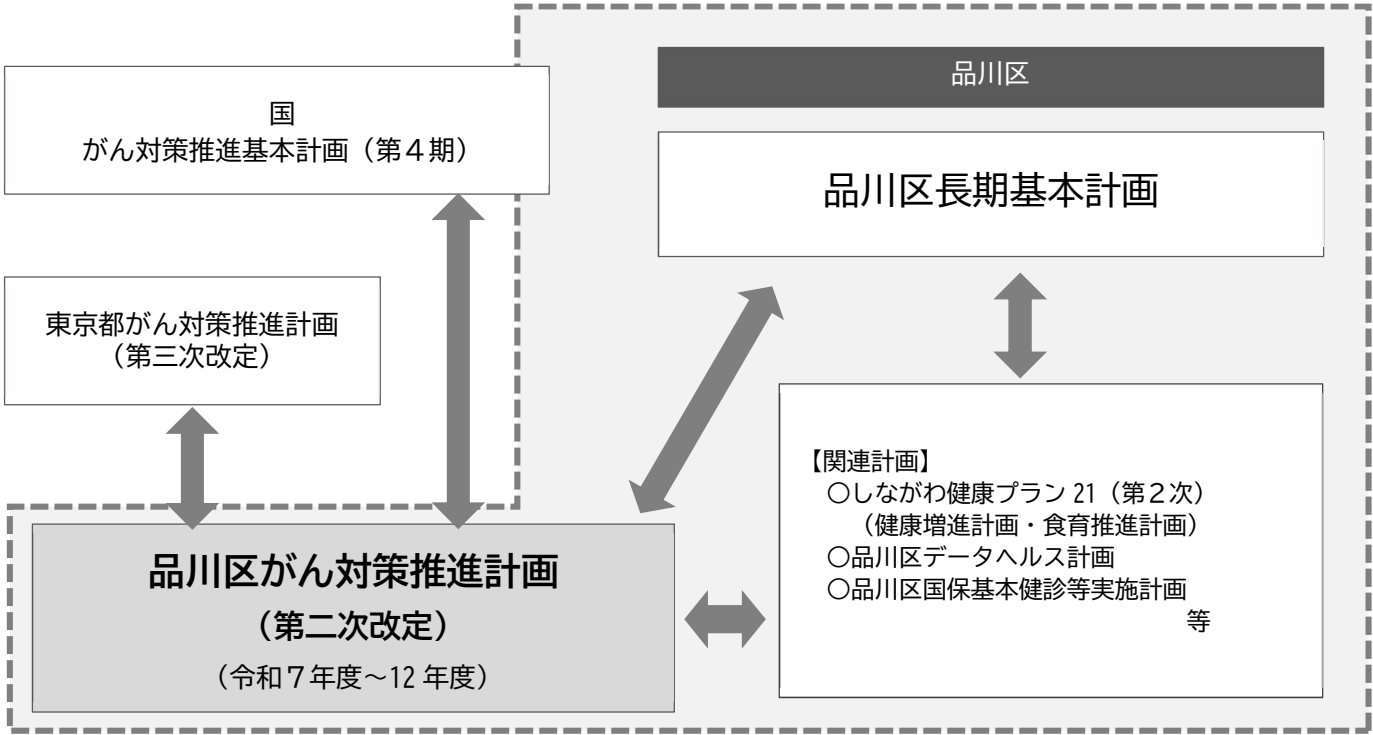
- 東京都では、国の方向性を踏まえつつ、都民の視点に立ったがん対策を推進するため、2024年（令和6年）3月に「東京都がん対策推進計画（第三次改定）」を策定し、より都民の実態に即した施策を展開しています。

【品川区の動向】

- 区では、令和2年度から令和6年度までの5年間を計画期間とした「品川区がん対策推進計画」を策定し、がん予防に関する普及啓発やがん検診の実施、たばこ対策、がん教育等に取り組んできました。本計画が令和6年度に終了するため、社会情勢の変化や国・東京都の政策動向を踏まえつつ、新たな課題に応じたがん対策を総合的・計画的に推進するため、「品川区がん対策推進計画（第二次改定）」（令和7年度～12年度）を策定することとしました。

■計画の位置づけ

本計画は、品川区長期基本計画を上位計画とし、健康増進計画である「しながわ健康プラン21」等の関連計画として位置づけます。なお、策定にあたっては、国の「がん対策推進基本計画（第4期）」や東京都の「東京都がん対策推進計画（第三次改定）」と整合を図るものとします。



■計画の期間

本計画の計画期間は、令和7年度から令和12年度までの6年間とします。なお、国や東京都の方針、また社会状況の変化等により、必要に応じて見直す場合があります。

■基本情報

- ・人口：404,196人（年少人口比11.8%、生産年齢人口比68.1%、老年人口比20.1%） 令和5年
- ・高齢化率：20.1%（全国：28.6%、東京都：22.7%） 令和5年
- ・死因別死亡率：区民の死因の第1位は「がん（悪性新生物）」であり、第2位以下の「心疾患」「脳血管疾患」「肺炎」と比べ、死亡率は大きく上回っています。（令和2年）
- ・がん（悪性新生物）による死亡割合（令和4年）
【全国】24.6% 【東京都】25.0%
【品川区全体】25.5% 【品川区（男性）】27.0% 【品川区（女性）】23.9%

現状		課題	
がん予防	● 1年以内に喫煙した人の割合は減少しています。（指標） ● 喫煙による健康影響（がん）の認知率は増加していますが、目標値の達成には至っていません。（指標） ● 禁煙外来治療費助成金交付数について、目標値の達成には至っておらず減少しています。（指標） ● 受動喫煙「有」の割合は、目標値の達成には至っていませんが、60.4%から36.9%と大きく減少しています。（指標） ● 飲酒に関して、週5日以上かつ1日に2合以上飲む人の割合が減少しています。（指標） ● 野菜を1日5皿（350g）以上食べている人の割合は増加していますが、3.3%にとどまっています。（指標） ● 家庭での味付けは外食とくらべてうすいと感じている人の割合は減少しています。（指標） ● HPVワクチンの接種率は増加しています。（指標） ● 医師を活用したがん教育実施校 中学校・義務教育学校（後期課程）の数は、5校から15校に増加しており、目標値を達成しています。（指標）		● 禁煙した人の割合は減少していますが、喫煙がもたらす健康影響についての理解や禁煙希望者に対する支援など、これまでの取組を継続していくことが必要です。 ● 受動喫煙を受けたことがある人の割合について、目標値の達成には至っていないものの、大幅に減少していることから一定程度の取組の効果はあったと考えられます。さらに減少させていくために取組を強化していくことが必要です。 ● 健康プランの取組も踏まえ、飲酒の適量を周知し、生活習慣病のリスクを高める量の飲酒をしないよう啓発する取組が必要です。 ● 野菜摂取量について、350g以上食べている人は3.3%にとどまっており、摂取量を知らない人もいれば、わかってはいるけれども、どのように摂取すればよいかわからない人などいると考えられ、割合を増加させていくためには、様々な方面からのアプローチが必要です。 ● また、家庭での味付けは外食とくらべて薄いと感じている人の割合は減少しており、減塩の取組を継続していくことが必要です。 ● HPVワクチンの接種については、今後も正しい知識の啓発を積極的に行っていくことが重要です。 ● 子どものうちからがんについて正しい知識を身につけ、自らの健康や命の大切さについて学び、考える機会を提供していくことが必要です。
がんの早期発見	● 各種検診のチェックリスト実施項目については、策定時50%台でしたが、70～90%台へと増加しています。（指標） ● 各種がん検診の受診率について、大腸がん検診のみ策定時より減少しています。子宮がん、乳がんに関しては、目標値を達成しています。（指標） ● 各種がん検診の精密検査受診率について、いずれも策定時より増加しています。胃がん、乳がんに関しては目標値を達成しています。（指標） ● 国の指針にないがん検査・検診の廃止については、策定時は6検査・検診となっており、減少が目標でしたが現状としては変わっていません。（指標）		● がん検診の受診率、精密検査受診率については、概ね向上していることから取組を継続して行っていくとともに、検診の質の向上に関する取組を行い、早期発見、早期治療につなげていくことが重要です。 ● 国の指針にないがん検査・検診については、医師会等と検診の有効性を検証、協議のうえで実施の可否を検討していくことが必要です。
がん患者やその家族への支援	● 図書館でのがん情報提供実施館数について、策定時は0館でしたが、11館の実施となっており、目標値を達成しています。（指標） ● 緩和ケアに関する健康教育実施回数について、策定時は11回となっていましたが、現状としては1回と大きく減少している状況です。（指標） ● 地域医療連携の充実について、連絡会等の開催や他機関と連携した相談会の開催、人材育成への支援に向けた研修会等を行うことができます。（指標） ● がんと就労に関する健康教育の実施について、継続して実施していますが、目標となっている増加には至っていません。		● がん治療と就労の両立に関することは、コロナ以降、参集型の出張健康学習からSNSやオンラインによって幅広い対象に情報発信ができるようになってきたことから情報発信について様々な方法を検討していくことが必要です。 ● 医療機関による緩和ケア等の情報提供について、相談支援に活用できるものを継続して提供できるようにすることが必要です。 ● がん患者支援において、がん相談支援センターや医療機関等と情報共有を図っていくことが必要です。
意識調査より	● がん検診を受診しなかった理由について、「必要性を感じなかった」が最も多く21.7%となっています。 ● 品川区のがん検診を受診したきっかけについて、「区から送られてくる受診案内から」が最も多く90.2%となっています。 ● 「がん」について区として力を入れてほしいことについて、「がんの早期発見（がん検診）」が最も多く58.9%となっており、次いで「がんに関する正しい情報提供」が42.9%、「がんに関する相談や支援体制の充実」が41.0%となっています。 ● 「がん」に関する情報などについての認知状況・活用の有無について、「品川区がん情報ホームページ」「がん夜間相談窓口：マギーズ東京」「区内がん相談支援センター」「ウィッグ（かつら）や胸部補正具の購入等費用助成」のいずれにおいても「知らない」の割合が高く、8～9割となっています。		● 品川区のがん検診を受診したきっかけについて、「区から送られてくる受診案内から」が多く、一定の効果はあることがうかがえます。一方で、検診を受診しなかった人もいることから、理由を踏まえ、早期発見、治療に向けた検診の重要性、必要性などを改めて周知し、受診につなげていくことが必要です。 ● 区として力を入れてほしいことについては、これまで取組を行ってきた内容ではありますが、今後の取組として充実や拡大も視野に検討していく必要があります。 ● 「がん」に関する情報などについての認知状況に関して、多くの人が知らないことから、必要があっても活用できない状況になっています。いざという時、必要となったときに活用できるよう、まずは知ってもらうための取組を強化していくことが重要です。

次期計画における体系案

基本理念

がんにならない、がんとともに自分らしく暮らせるまち品川

基本目標

1

がん予防を推進する

2

がんの早期発見に向けた取り組みを推進する

3

がん患者やその家族への支援を推進する

基本施策

(1) がん予防に関する生活習慣の普及啓発の推進

(2) がん教育への取組の充実

(1) 科学的根拠に基づくがん検診の実施

(2) がん検診の質の向上に関する取組の推進

(3) 受診率向上の取組の推進

(1) がん患者やその家族の不安軽減に向けた取組の推進

(2) 地域医療連携の充実

(3) がんと就労に関する相談、支援の充実

取り組み

①生活習慣の改善
②たばこ対策
③ウイルス等の感染対策

①学校教育等における正しいがん知識の普及

①国の指針を踏まえた検診の見直し、有効ながん検診の実施

①事務事業評価のためのチェックリストの実施
②精度管理委員会の開催・検証
③プロセス指標の活用

①がん検診受診率（一次検診）の向上
②精密検査受診率の向上

①相談支援の充実

①がん患者支援機関等との連携

①情報提供の充実
②職域分野との連携